

授業の具体的展開例

資料を読み取り、個人及び集団で解決

T：これはある自動車工場の海外生産拠点を示した世界地図です。これを見てどんなことが分かるでしょう。

～自力での解決～

T：では、気付いたことを発表しましょう。

C1：アジアやヨーロッパに多い。

C2：アメリカや中国に多い。

C3：世界のいろいろな国に工場がある。

T：そうですね。海外に工場をつくり、そこで自動車を生産するようになってきたのですね。では、なぜ日本で生産した自動車を輸出する方法から、外国（現地）で生産する方法に変わってきたのでしょうか。ノートに自分の考えを書きましょう。

～机間指導～

T：これまでの学習を振り返り、現地生産の利点を考えてみましょう。

～集団での解決～

T：考えたことを発表しましょう。

C：現地に工場があることで、現地の人の希望に合った自動車ができる。

C：消費者に速く届けることができる。

C：運ぶコストがかからない。

C：現地の人に働いてもらえる。

C：技術の発展につながる。

T：そうですね。そういった理由で現地生産という方法が増えてきたのですね。

T：しかし、工場がみんな外国へ行ったら、日本はどうなるのでしょうか・・・

「活用」の力を育てる指導の工夫

本時では、資料から自動車の生産の仕方が変化していることを読み取り、なぜそうなったのかを考えて自分の言葉で説明する活動を重視している。そのためには、表現する力を育てるためのノートへの書き込みや話し合い活動の指導が大切である。また、日頃から資料の読み取りや考えを文字に表すことに慣れさせる指導の積み上げが重要となる。

考えたことを交流する時間は、自分の考えを整理できた児童には他の友だちに正確に伝わるように、考えがうまくまとまらない児童には友だちの意見を聞いて自分の意見が持てるように支援したい。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時においては、「資料からこのようなことが分かりました。資料や今までの学習から、こういう理由でこのようになったのだと考えました。」のように、ていねいに説明する活動を取り入れていくようにする。相手によく分かるように表現できる力を伸ばしたい。

「活用」の力を評価する具体的な視点としては、以下の4つが考えられる。

- ① 資料を見て分かること、さらなる予測や気付き等、分かりやすく説明することができる。
- ② 資料を見て分かること、あるいは、今後の変化に気付き、説明することができる。
- ③ どちらも気付いていなかったが、友だちの発表や教師の説明を聞き、理解することができる。
- ④ どちらも理解できない。

④の状態の児童には、十分な個別指導が必要である。また、①②の状態になるように話し合いの場面を充実させるとともに、他の学習の話し合いの場面でも「はじめに、次に、最後に。」というように接続語を活用して自分の言葉でまとめることを積み上げていく。日常的に「活用」の力を育てることを意識することが大切である。

単元の流れへ

本時の流れへ

板書例へ

評価問題へ

HOME

CLICK

くわしい単元指導
計画はこちら

